

防災意識に関するアンケート調査概要

調査実施時期 令和3年7月～9月



目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1. アンケート調査の概要 | 1 |
| 1.1. 実施概要..... | 1 |
| 1.2. 町別回収状況..... | 1 |
| 1.3. 調査結果概要..... | 2 |
| 2. アンケート調査結果..... | 5 |
| 2.1. 災害に関する意識について..... | 5 |
| 2.2. 地震対策に関する意識について | 8 |
| 2.3. 防災情報（自然災害全般）に関する意識について | 15 |
| 2.4. 防災訓練等に関する意識について..... | 18 |
| 2.5. 自助、共助、公助の対策に関する意識について..... | 21 |
| 2.6. 常盤学区における防災上の特性について..... | 22 |

1. アンケート調査の概要

1.1. 実施概要

実施時期は、令和3年7月～9月に常盤学区全世帯1,351世帯に配布し、985票の回答を得て回収率は73%。参考に内閣府の調査概要を併記している。

| | 常盤学区アンケート | 防災に関する世論調査（内閣府） |
|--------|-----------|--------------------|
| 調査実施時期 | 令和3年7月～9月 | 平成29年11月16日～11月26日 |
| 調査対象 | 常盤学区全世帯 | 全国18歳以上の日本国籍を有する者 |
| 配布数 | 1,351世帯 | 3,000人 |
| 回収数 | 985票 | 1,839人 |
| 回収率 | 73% | 61% |

1.2. 町別回収状況

回答数は総計、985人。町別の内訳は以下に記載の通り。

| 町内会・自治会 | 回収数 | 戸数 | 回収率 |
|----------|-----|-------|-------|
| 片岡町 | 64 | 122 | 52.5% |
| 下寺町 | 22 | 51 | 43.1% |
| 下寺町津田江 | 31 | 43 | 72.1% |
| 下物町 | 129 | 139 | 92.8% |
| 芦浦町東 | 42 | 60 | 70.0% |
| 芦浦町 | 83 | 101 | 82.2% |
| 長束町 | 20 | 43 | 46.5% |
| 上寺町 | 32 | 66 | 48.5% |
| 穴村町 | 107 | 136 | 78.7% |
| 北大萱町 | 63 | 72 | 87.5% |
| 志那町 | 75 | 125 | 60.0% |
| 志那町吉田 | 78 | 89 | 87.6% |
| 志那中町 | 154 | 160 | 96.3% |
| 常盤団地 | 22 | 42 | 52.4% |
| 片岡東 | 36 | 49 | 73.5% |
| ホープタウン芦浦 | 27 | 53 | 50.9% |
| 合計 | 985 | 1,351 | 72.9% |

1.3. 調査結果概要

(1) 災害に関する意識

災害に対する意識として「地震」、「竜巻、突風、台風など風による災害」と回答している住民の割合が高い。

草津市は、災害経験が少ないエリアであるが、草津市防災アセスメント調査結果によると地震災害では、草津市全域の人的被害として、琵琶湖西岸断層帯地震では 5,500 人、南海トラフ巨大地震では 1,050 人が被災するとの結果が出ている。さらに風水害では、2018 年の台風 21 号により、4 名の負傷者、住宅の一部損壊が 70 棟の被害が発生した。草津市では、「洪水・内水ハザードマップ（保存版令和 3 年 6 月作成）を作成しており、常盤学区の浸水深は、宅地でも一部 0.5m 程度の浸水が想定されているエリアがある。特に、常盤小学校の南側では 0.5m～1.0m の浸水深が想定されていることから、地震や風水害を意識している住民の割合が高くなったものと推測される。

自然災害に関して参考となる情報として、「国や地方公共団体などが公表している災害危険箇所を示した地図」、「災害報道」と回答している住民の割合が高い。常盤学区の住民は、ハザードマップなど災害の基礎情報の認知率が高いが、被災についてより具体的な想像ができるように、過去の災害教訓や被災者の体験談を聞くなどの研修が望まれる。

家族で話し合った内容として「避難の方法、時期、場所」、「食料・飲料水」と回答している住民の割合が高い。

(2) 地震対策に関する意識

地震発生時の心配事として「建物の倒壊」、「電気、水道、ガスの供給停止」、「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」と回答している住民の割合が高い。常盤学区の特性として、津波や土砂崩れの災害は起こらないことから、液状化現象や建物倒壊の心配が顕著に表れている。安否確認やライフラインの停止、避難所生活など、災害後の対応や環境について心配している住民が多い。今後、防災訓練などに取り組み、備えていくことで住民の心配を軽減できると考えられる。

2018 年台風 21 号の影響により、滋賀県下で 168,000 軒の停電が発生したこと等より、ライフラインの供給停止を心配している住民の割合が高いと推測される。

耐震診断について「耐震診断をしていないが、今後の実施予定はない、わからない」と回答している住民の割合が高い。

耐震改修について「耐震改修または建替えをするつもりはない」と回答している住民の割合が高い。

草津市では、耐震診断を無料で実施しており、耐震改修に伴う補助制度(補助率 80%、最大 100 万円以下)を設けている。しかし、耐震診断を実施した家屋では、診断結果で耐震改修が必要となった場合であっても、耐震改修を行わない場合が多い。

耐震改修については、常盤学区の旧耐震基準の大規模住宅が多いため、改修に要する費用負担が大きいことが予想されるため、建替えを行わない住民の割合が高くなっていると推測される。耐震改修の補助制度には限界があることから、草津市等行政機関と連携して対策を検討することが課題である。

大地震の備えとして「自宅建物や家財を対象とした地震保険（地震共済を含む）に加入している」と回答している住民が6割ある。

一方、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と回答している住民は2割、「家族の安否確認の方法を決めている」は1割、「食料や飲料水、日用品などを準備している」等災害時に備えた備蓄に関する項目がほとんど1割程度の回答となっており、災害時に対する備えが取り組まれていないことが課題としてあげられる。

さらに、「重量のある家具、家電の一部固定」であっても約半数しか取り組んでいない状況であり、早急に取り組むべき課題として位置付けておく必要がある。

(3) 防災情報（自然災害全般）に関する意識

災害に対する危険性や災害対策として日頃から充実してほしい情報として、「災害時の避難場所・避難経路」、「居住地域の災害危険個所を示した地区（ハザードマップなど）」と回答している住民の割合が高い。

災害発生時に充実してほしい情報として「震度・雨量・特別警報などの情報」、「救援物資が受け取れる場所の情報など」、「ライフラインの復旧見通し」と回答している住民の割合が高い。

救援物資の情報については、Q6 同様に食料や飲料水、日用品などを準備している住民が少ないことも影響していると推測される。

さらに、Q4 同様にライフラインの供給停止を心配している住民も多いことから、情報の充実を望んでいると推測される。

このように、全国結果と同様に、あらゆる情報の充実を望んでいることが伺える。

防災全般に関する知識や情報を入手するために活用するものとして、「テレビ」と回答している住民が8割、「防災情報のホームページ・アプリなどの情報」と回答している住民が4割ある。住民の多くは「テレビ」を頼りにする傾向があるが、停電時には活用できないため、「ラジオ」の活用についても進める必要がある。

草津市では、防災情報としてホームページを始め、屋外スピーカー、屋外スピーカー電話自動応答装置、えふえむ草津（FM78.5MHz）、草津市安全安心メール、携帯会社の緊急速報メール等の複数の手段を用いて情報を収集し、配信している。これらの情報はマスメディアの情報に比べ、地域のきめ細かな情報を入手することができる。このように、住民は防災情報を多様な手段で入手することが可能となっていることから、常盤学区の住民に対しても、防災情報のホームページ・アプリの活用をより進める必要がある。

(4) 防災訓練等に関する意識

常盤学区では、防災訓練の参加や見学について「参加したことがある」と回答している住民の割合が高い。

常盤学区は、町内会・自治会単位で毎年防災訓練を実施している所があるが、学区としての総合防災訓練を実施していないことから、多くの人に参加してもらうとともに、災害疑似体験をしてもらう等、防災意識を高める訓練を実施することが望まれる。

常盤学区では、防災訓練に参加、見学しなかった理由として「具体的な日時・場所、申し込み方法がわからなかったから」、「時間がなかったから」と回答している住民の割合が高い。

常盤学区は地域のつながりが強い町内会が多いことから、各種行事（ふれあいまつり、運動会）に合わせた防災活動を実施する等参加しやすい環境をつくることが求められる。

(5) 自助、共助、公助の対策に関する意識

災害時に取るべき対応として、「自助」に重点をおくべき」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較すると、「共助」に重点を置くべき」と回答している住民の割合が高くなっている。

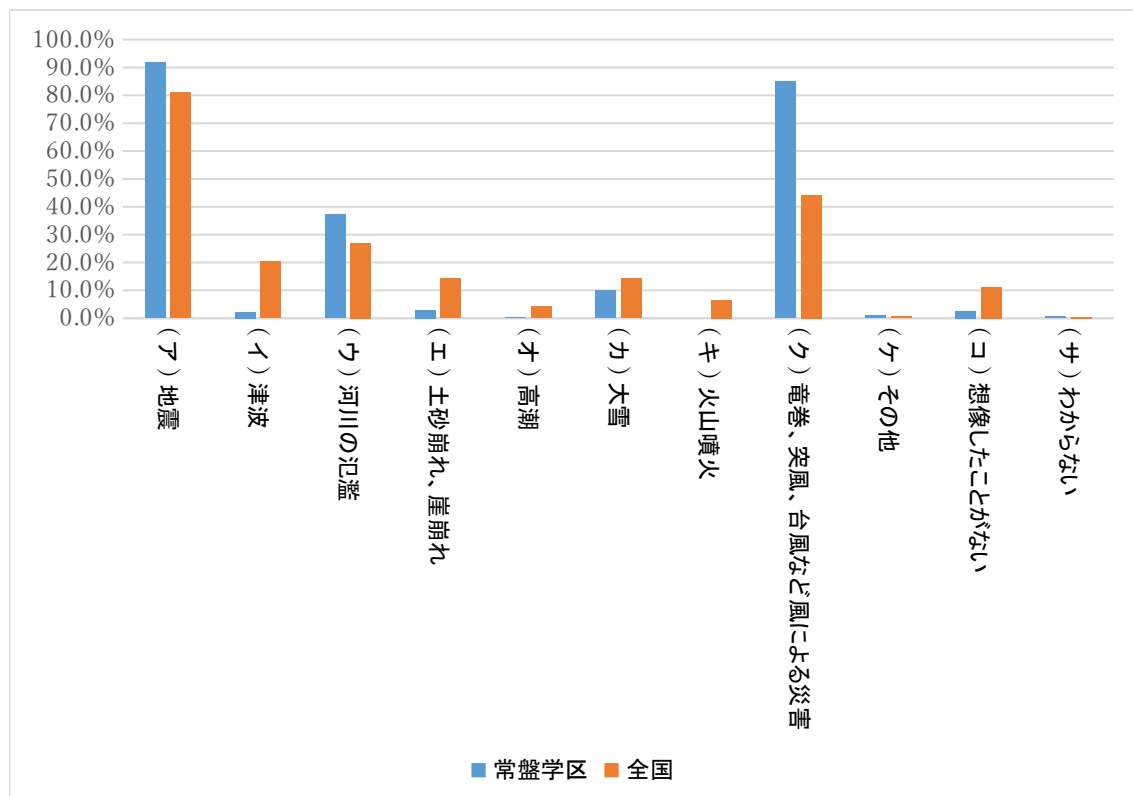
常盤学区は、地域とのつながりが強く、地域コミュニティが充実していることもあり、災害時要援護者支援の取組を行っている町内会・自治会が多いことから「共助」の取組を意識している人が多いと推測される。

さらに、常盤学区では、重機を保有している事業所が多いことから、建物被害等の対策として、予め災害時における事業者への協力依頼を行う等協議しておくことが望まれる。

2. アンケート調査結果

2.1. 災害に関する意識について

Q1 あなたは、自然災害について、ご自分やご家族の場合に当てはめて、災害の被害に遭うことを具体的に想像したことがありますか。あなたが想像したことがある自然災害をいくつでもあげてください。（複数回答可）

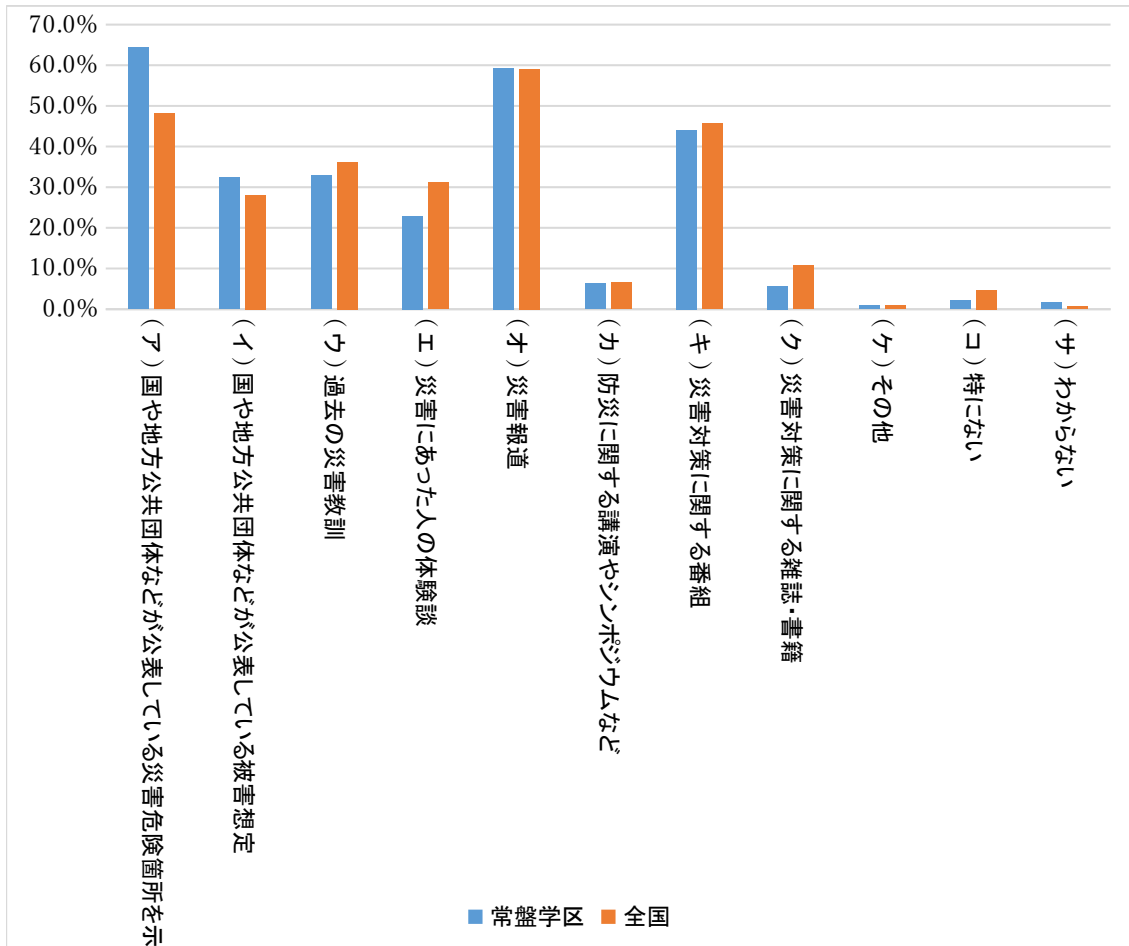


常盤学区では、災害に対する意識として「地震」、「竜巻、突風、台風など風による災害」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較すると、「竜巻、突風、台風など風による災害」と回答している住民の割合が高くなっている。

草津市は、災害経験が少ないエリアであるが、草津市防災アセスメント調査結果によると地震災害では、草津市全域の人的被害として、琵琶湖西岸断層帯地震では5,500人、南海トラフ巨大地震では1,050人が被災するとの結果が出ている。さらに風水害では、2018年の台風21号により、4名の負傷者、住宅の一部損壊が70棟の被害が発生した。

Q2 あなたが、自然災害に関して参考になると思うのはどのような情報でしょうか。いくつでもあげてください。（複数回答可）

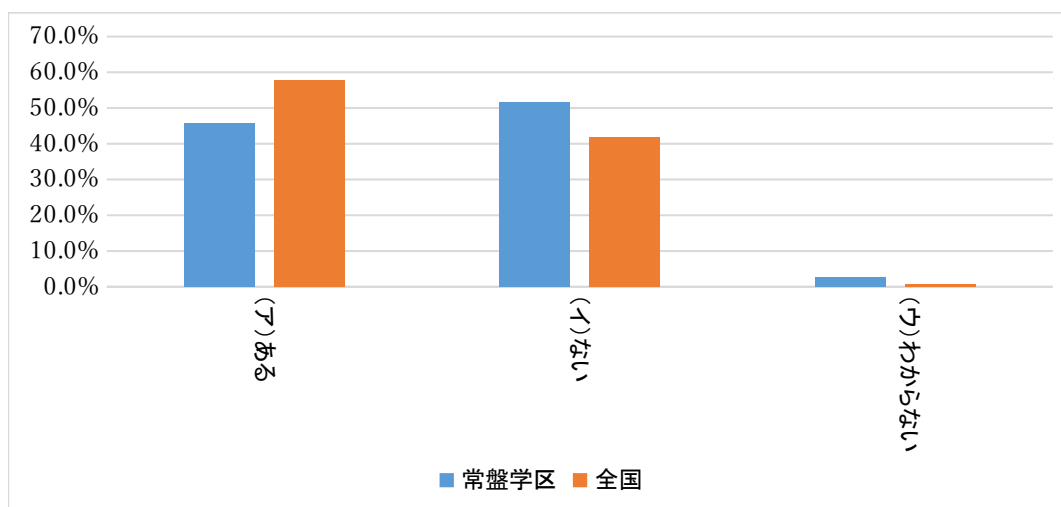


常盤学区では、自然災害に関して参考となる情報として、「国や地方公共団体などが公表している災害危険箇所を示した地図」、「災害報道」と回答している住民の割合が高い。

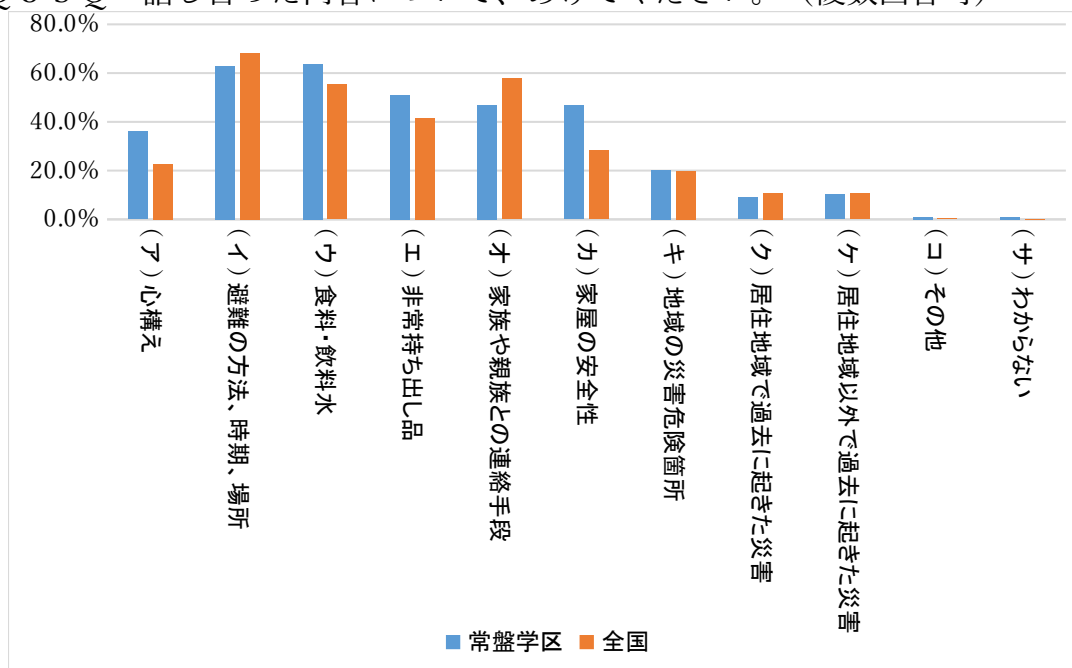
全国平均と比較しても、常盤学区は「国や地方公共団体などが公表している災害危険箇所を示した地図」と回答している住民の割合が高くなっている。

琵琶湖岸に位置する常盤学区の特性として、草津市防災アセスメント調査結果や自主防災組織実態調査結果からも琵琶湖岸地域に液状化発生の危険性があり、液状化の予想マップ等作成の要望があがっていることから伺える。

Q3 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどについて、話し合ったことがありますか。



Q3SQ 話し合った内容について、あげてください。(複数回答可)



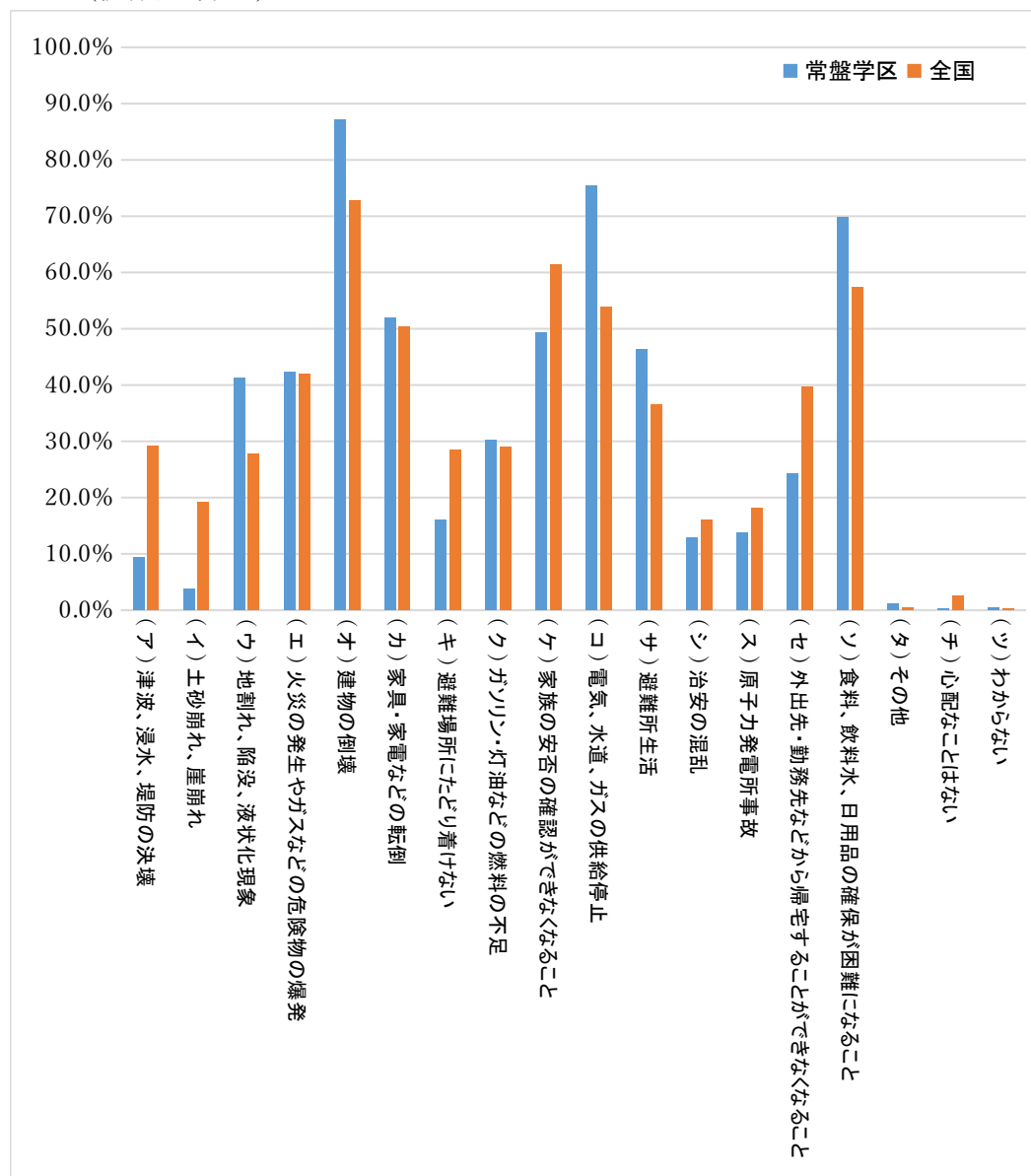
常盤学区では、家族で話し合った内容として「避難の方法、時期、場所」、「食料・飲料水」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較すると、「家屋の安全性」を話し合っている住民の割合が比較的高くなっている。

常盤学区では、古い木造住宅（1980年以前に建てられた住宅）が多く、それらの住宅の耐震化があまり進んでいないことから、「家屋の安全性」について話し合っている住民が多いと推測される。

2.2. 地震対策に関する意識について

Q4 もしも、大地震が起こったとしたら、あなたはどのようなことが心配ですか。（複数回答可）

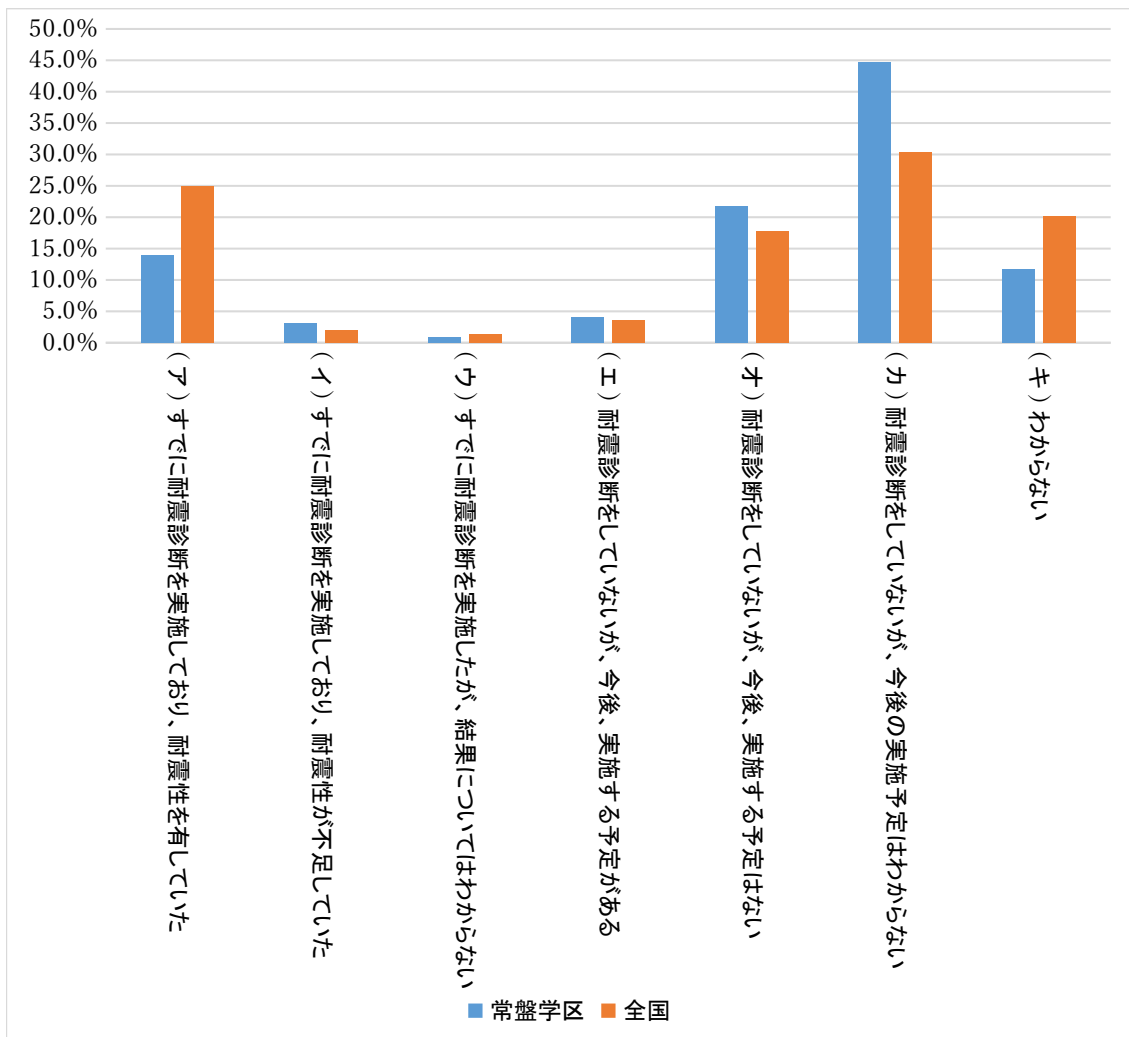


常盤学区では、地震発生時の心配事として「建物の倒壊」、「電気、水道、ガスの供給停止」、「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較しても同様に「建物の倒壊」、「電気、水道、ガスの供給停止」といったライフラインの供給停止を心配している住民の割合が高くなっている。

2018年台風21号の影響により、滋賀県下で168,000軒の停電が発生したこと等より、ライフラインの供給停止を心配している住民の割合が高いと推測される。

Q5 あなたのお住まいの「耐震診断」について、この中からあてはまるものを1つだけお答えください。（昭和56年以降に建築された方を除きます。）

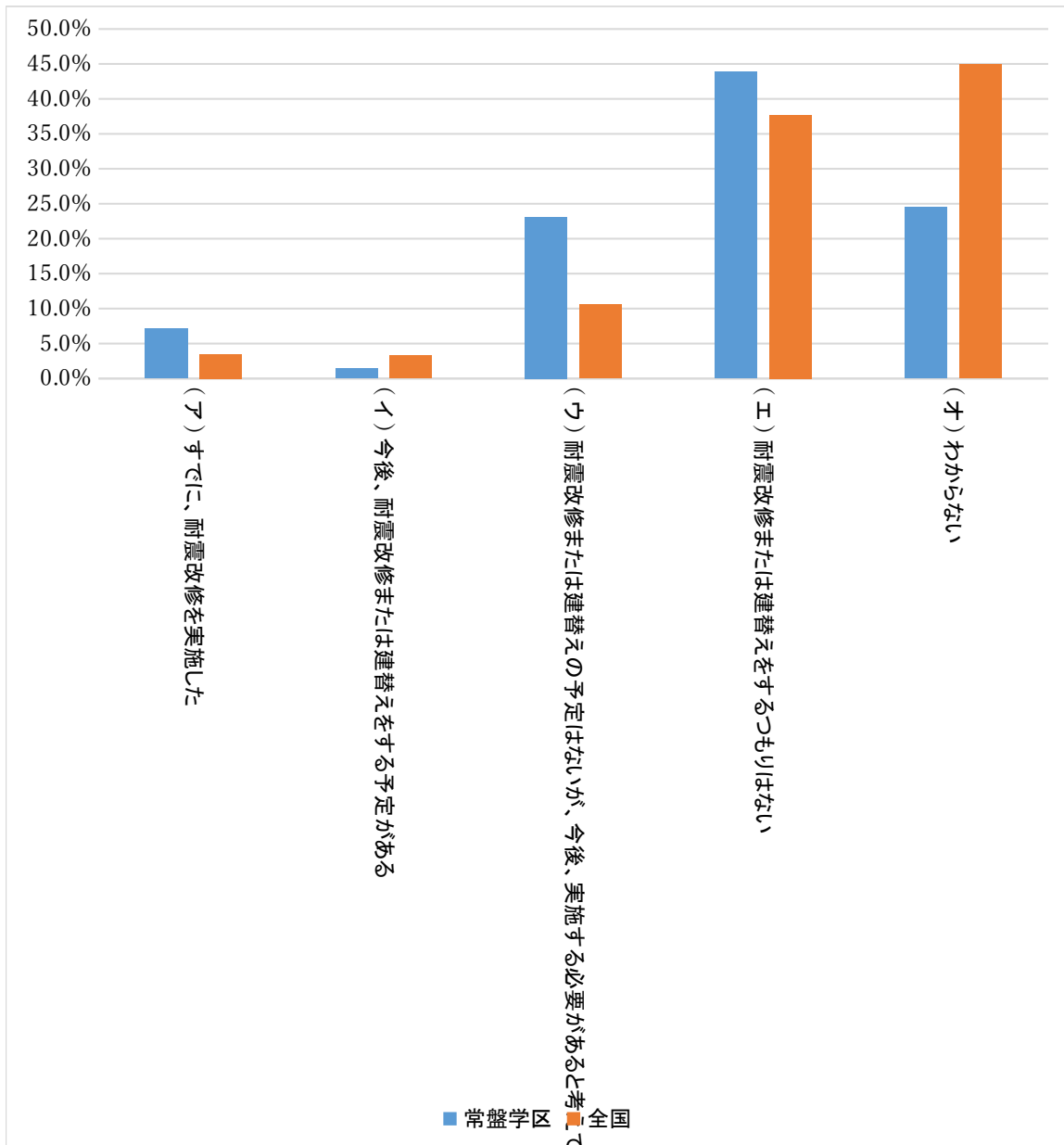


常盤学区では、耐震診断について「耐震診断をしていないが、今後の実施予定はない、わからない」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較しても同様に「耐震診断をしていないが、今後の実施予定はない、わからない」と回答している住民の割合が高くなっている。

草津市では、耐震診断を無料で実施しており、耐震改修に伴う補助制度(補助率 80%、最大 100 万円以下)を設けている。しかし、耐震診断を実施した家屋では、診断結果で耐震改修が必要となった場合であっても、耐震改修を行わない場合が多い。

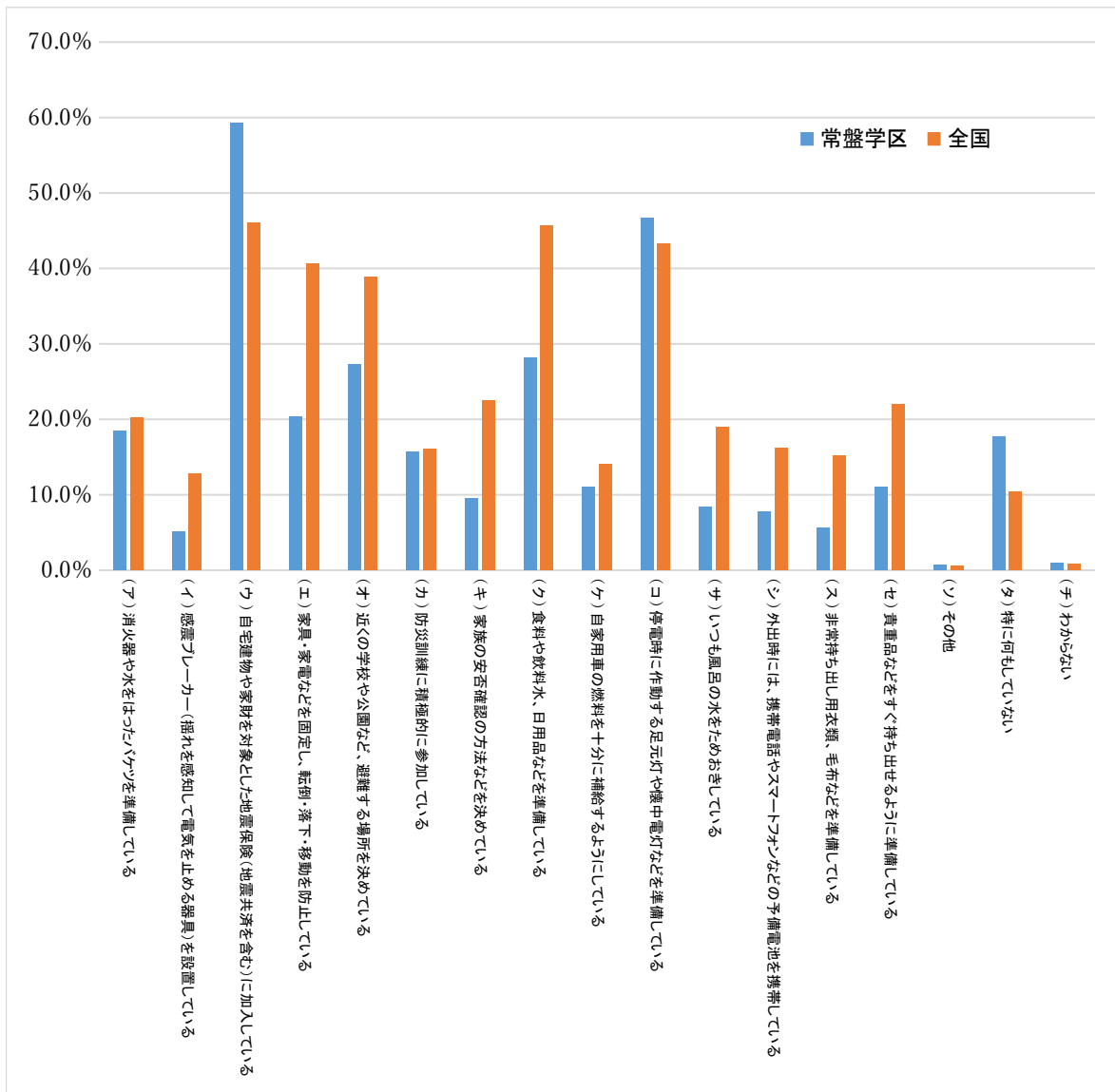
Q5SQ それでは、あなたのお住まいの「耐震改修」についてはどうでしょうか。あてはまるものを1つだけお答えください。



常盤学区では、耐震改修について「耐震改修または建替えをするつもりはない」と回答している住民の割合が高い。

耐震改修については、常盤学区の旧耐震基準の大規模住宅が多いため、改修に要する費用負担が大きいことが予想されるため、建替えを行わない住民の割合が高くなっていると推測される。耐震改修の補助制度には限界があることから、草津市等行政機関と連携して対策を検討することが課題である。

Q6 あなたの家では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。いくつでもあげてください。（複数回答可）

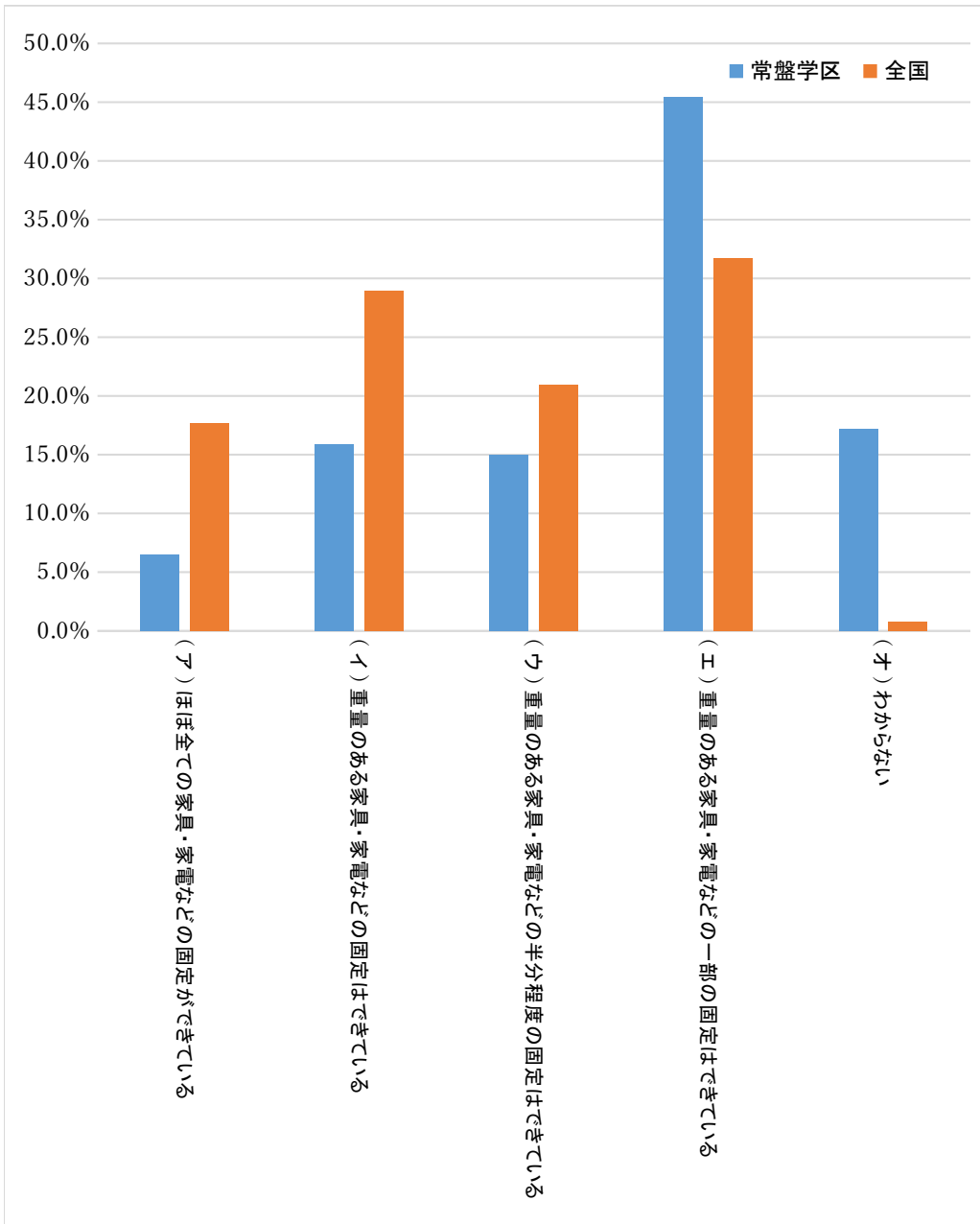


常盤学区では、大地震の備えとして「自宅建物や家財を対象とした地震保険（地震共済を含む）に加入している」と回答している住民が6割ある。全国平均と比較しても同様に、「地震保険に加入している」と回答している住民の割合が高くなっている。

一方、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と回答している住民は2割、「家族の安否確認方法を決めている」と回答している住民は1割、「食料や飲料水、日用品などを準備している」等災害時に備えた備蓄に関する項目がほとんど1割程度の回答となっており、災害時に対する備えが取り組まれていないことが課題としてあげられる。

(Q6で「(エ)家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」をあげた方に)

Q6SQa 家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策ほどの程度まで対策ができていますか。1つだけお答えください。

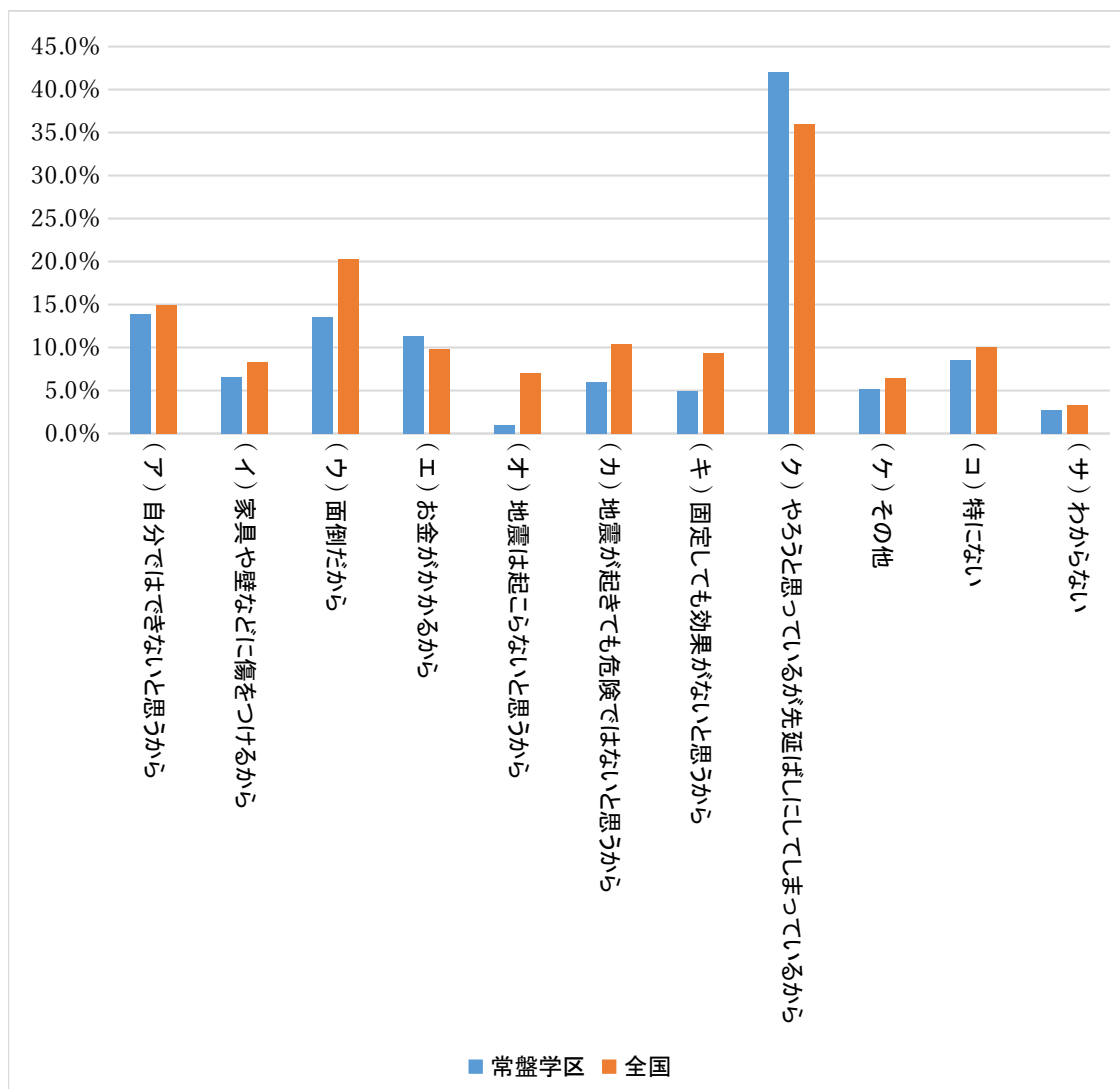


常盤学区では、家具、家電の固定状況についてみると、「重量のある家具・家電などの位一部の固定はできている」と回答している住民は約半数にとどまっている。

全国平均と比較しても同様の傾向がみられる。

このことから、「家具・家電の固定」に早急に取り組むべき課題として位置付けておく必要がある。

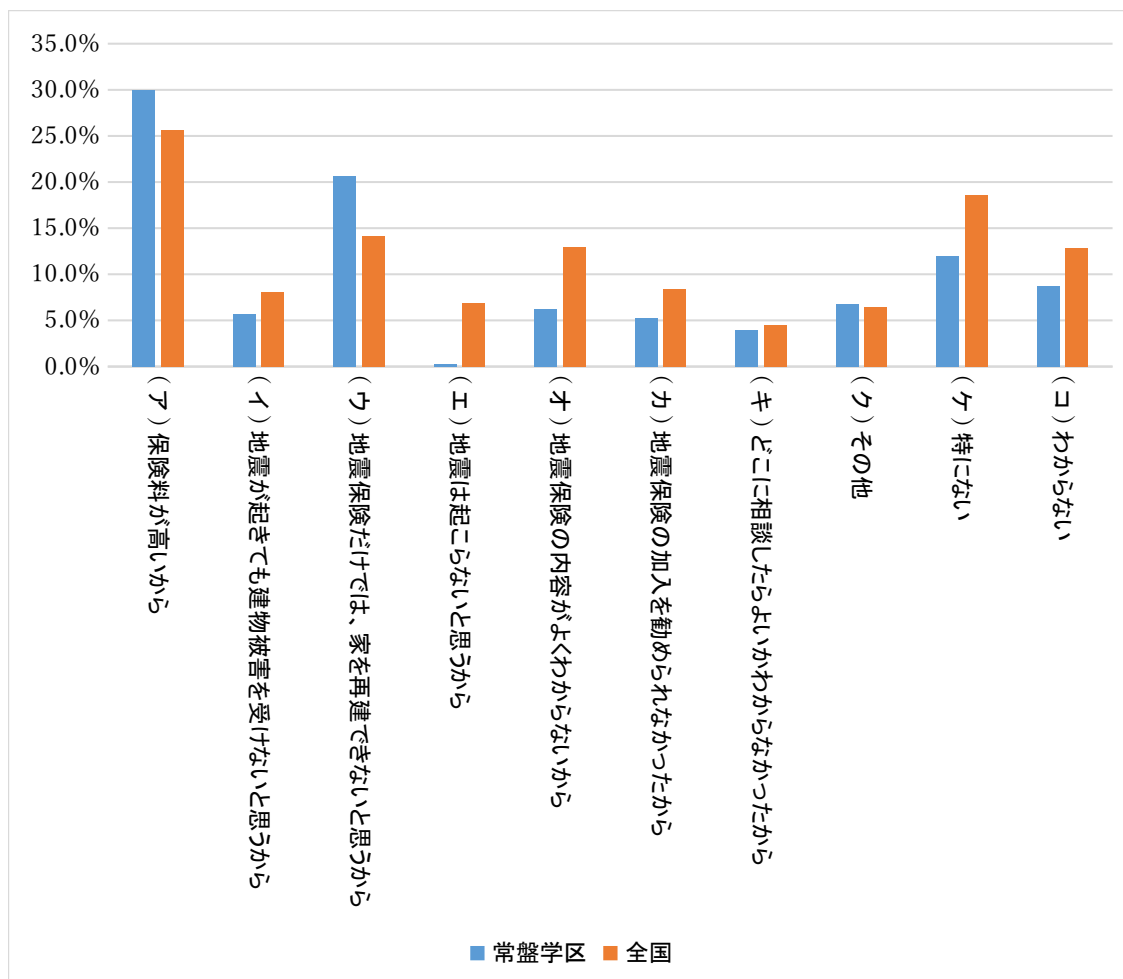
Q6SQb 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由は何ですか。（複数回答可）



常盤学区では、家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由として、「やろうと思っているが先延ばしにしてしまっているから」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較しても同様の傾向を示している。

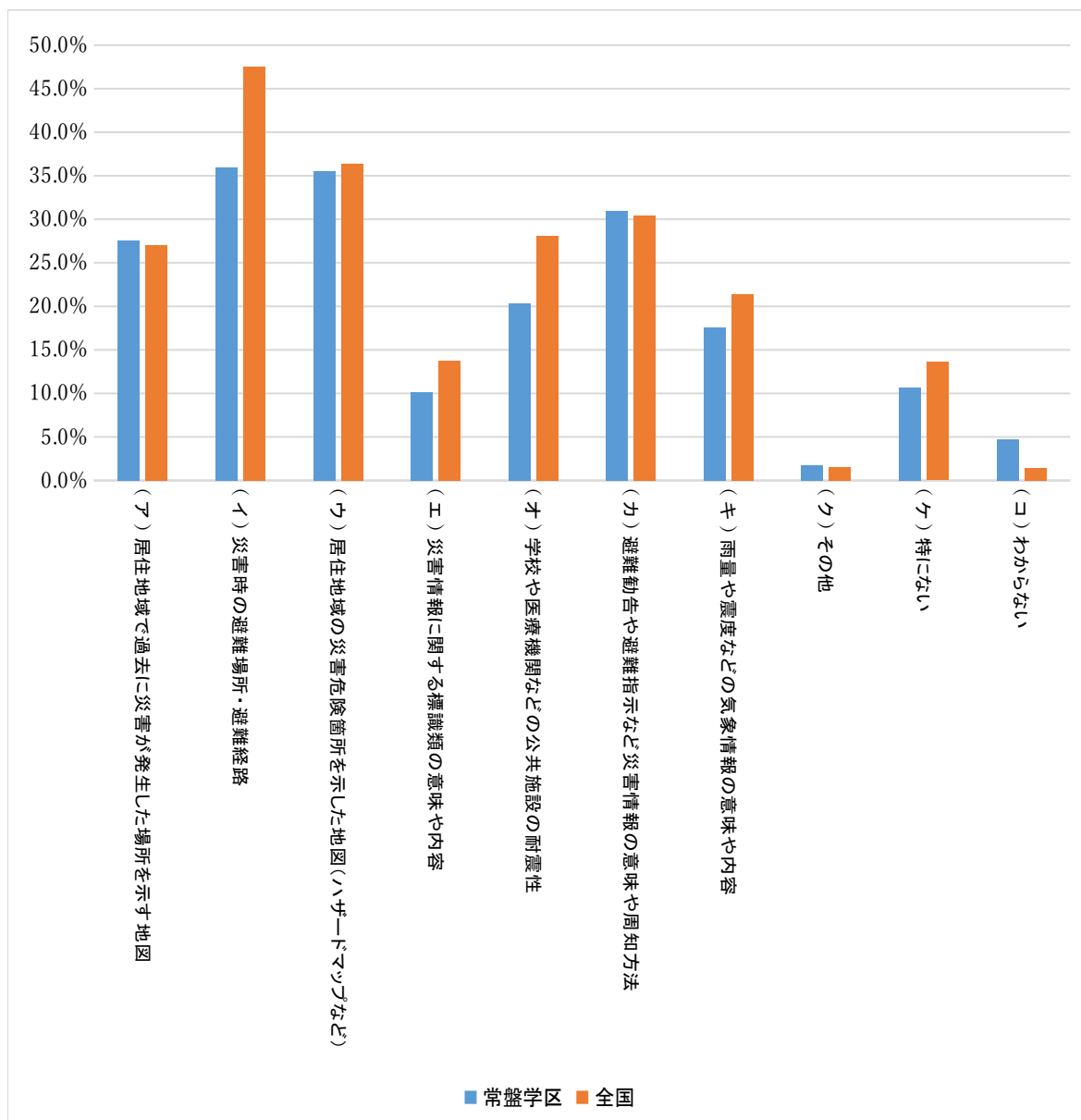
Q 6 S Q c 地震保険に加入していない理由は何ですか。(複数回答可)



常盤学区では、地震保険に加入していない理由として、「地震保険料が高いから」、
「地震保険だけでは家を再建できないと思うから」と回答している住民の割合が高い。
全国平均と比較しても同様の傾向を示している。

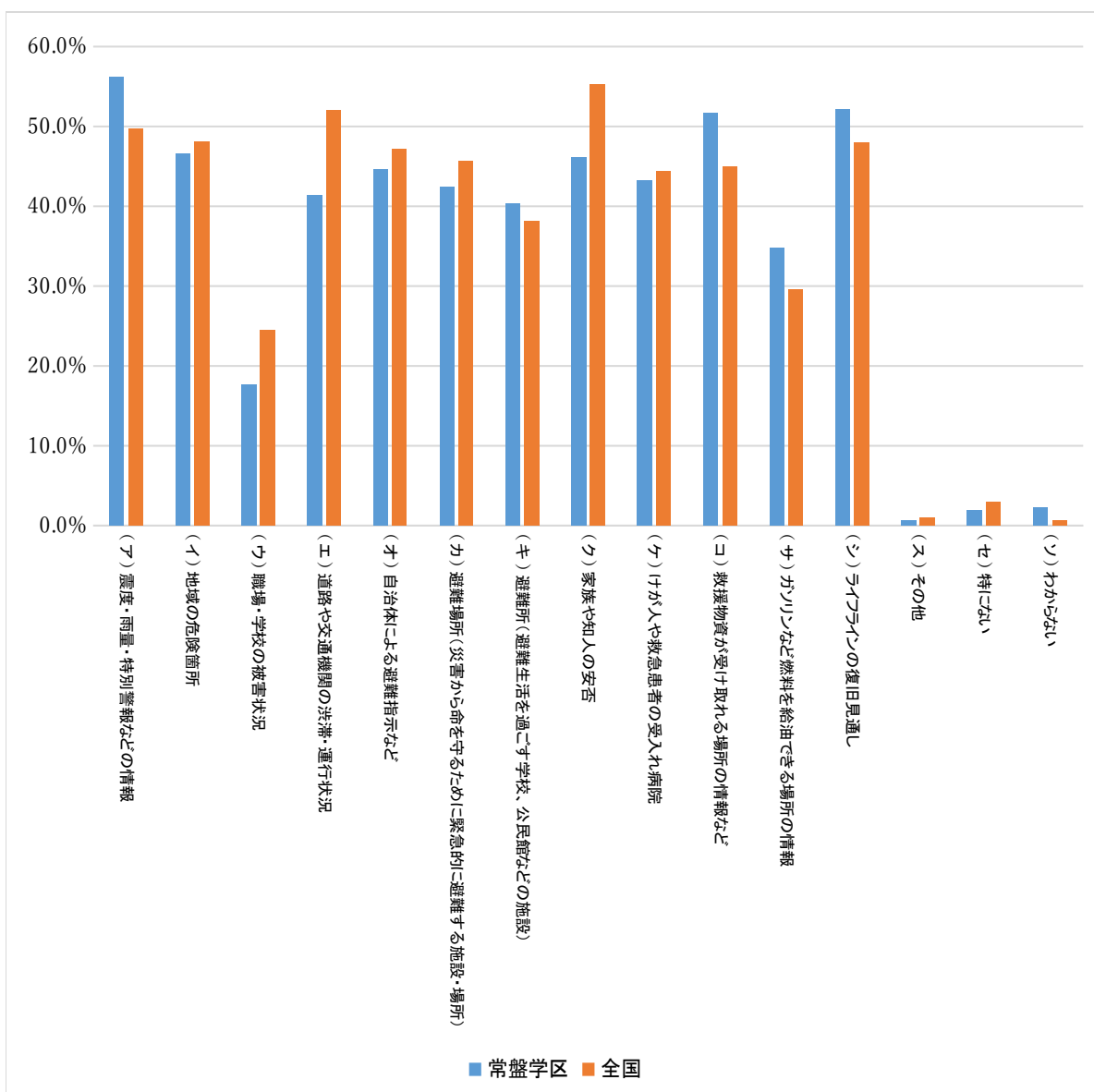
2.3. 防災情報（自然災害全般）に関する意識について

Q7 あなたがお住まいになっている地域の災害の危険性や災害対策について、普段から充実してほしいと思う情報は何か。（複数回答可）



常盤学区では、災害に対する危険性や災害対策として日頃から充実してほしい情報として、「災害時の避難場所・避難経路」、「居住地域の災害危険箇所を示した地区（ハザードマップなど）」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較しても同様の傾向を示している。



Q8 では、実際に自然災害が起こったときに、充実してほしい情報は何か。(複数回答可)

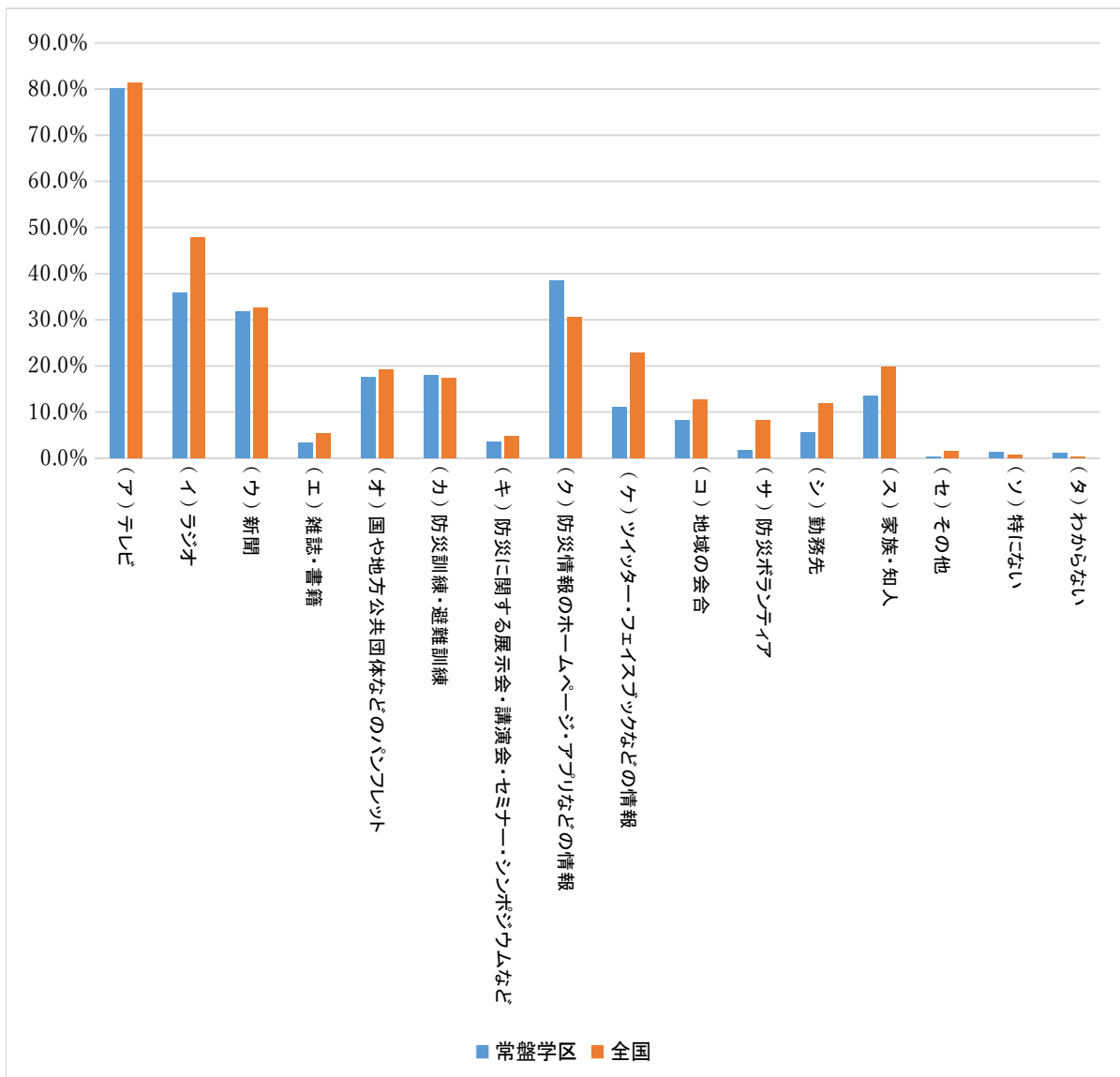
常盤学区では、災害発生時に充実してほしい情報として「震度・雨量・特別警報などの情報」、「救援物資が受け取れる場所の情報など」、「ライフラインの復旧見通し」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較しても同様の傾向がみられる。

救援物資の情報については、Q6 同様に食料や飲料水、日用品などを準備している住民が少ないことも影響していると推測される。

さらに、Q4 同様にライフラインの供給停止を心配している住民も多いことから、情報の充実を望んでいると推測される。

このように全国結果と同様に、あらゆる情報の充実を望んでいることが伺える。



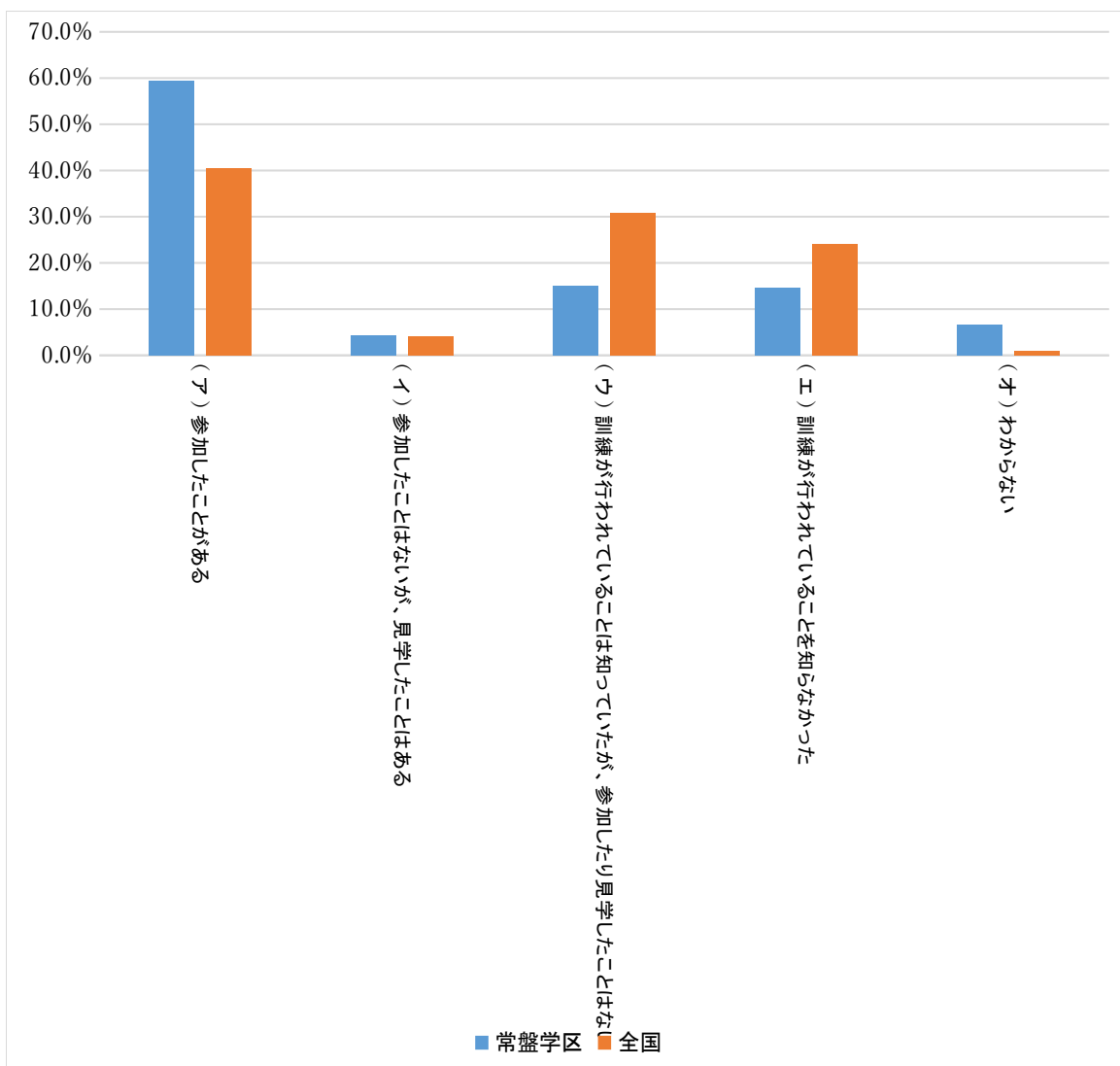
Q9 あなたが、防災全般に関する知識や情報を入手するために、今後、積極的に活用したいものはどれですか。（複数回答可）

常盤学区では、防災全般に関する知識や情報を入手するために活用するものとして、「テレビ」と回答している住民が8割、「防災情報のホームページ・アプリなどの情報」と回答している住民が4割ある。住民の多くは「テレビ」を頼りにする傾向があるが、停電時には活用できないため、「ラジオ」の活用についても進める必要がある。

全国平均と比較しても同様に「テレビ」を活用した情報収集となっている。

草津市では、防災情報としてホームページを始め、屋外スピーカー、屋外スピーカー電話自動応答装置、えふえむ草津（FM78.5MHz）、草津市安全安心メール、携帯会社の緊急速報メール等の複数の手段を用いて情報を収集し、配信している。これらの情報はマスメディアの情報に比べ、地域のきめ細かな情報を入手することができる。このように、住民は防災情報を多様な手段で入手することが可能となっていることから、常盤学区の住民に対しても、防災情報のホームページ・アプリの活用をより進める必要がある。

2.4. 防災訓練等に関する意識について



Q10 国や地方公共団体、自治会などでは、毎年、地震や豪雨などを想定した防災訓練を行っています。あなたは、今までに防災訓練に参加したり見学したことがありますか。1つだけお答えください。

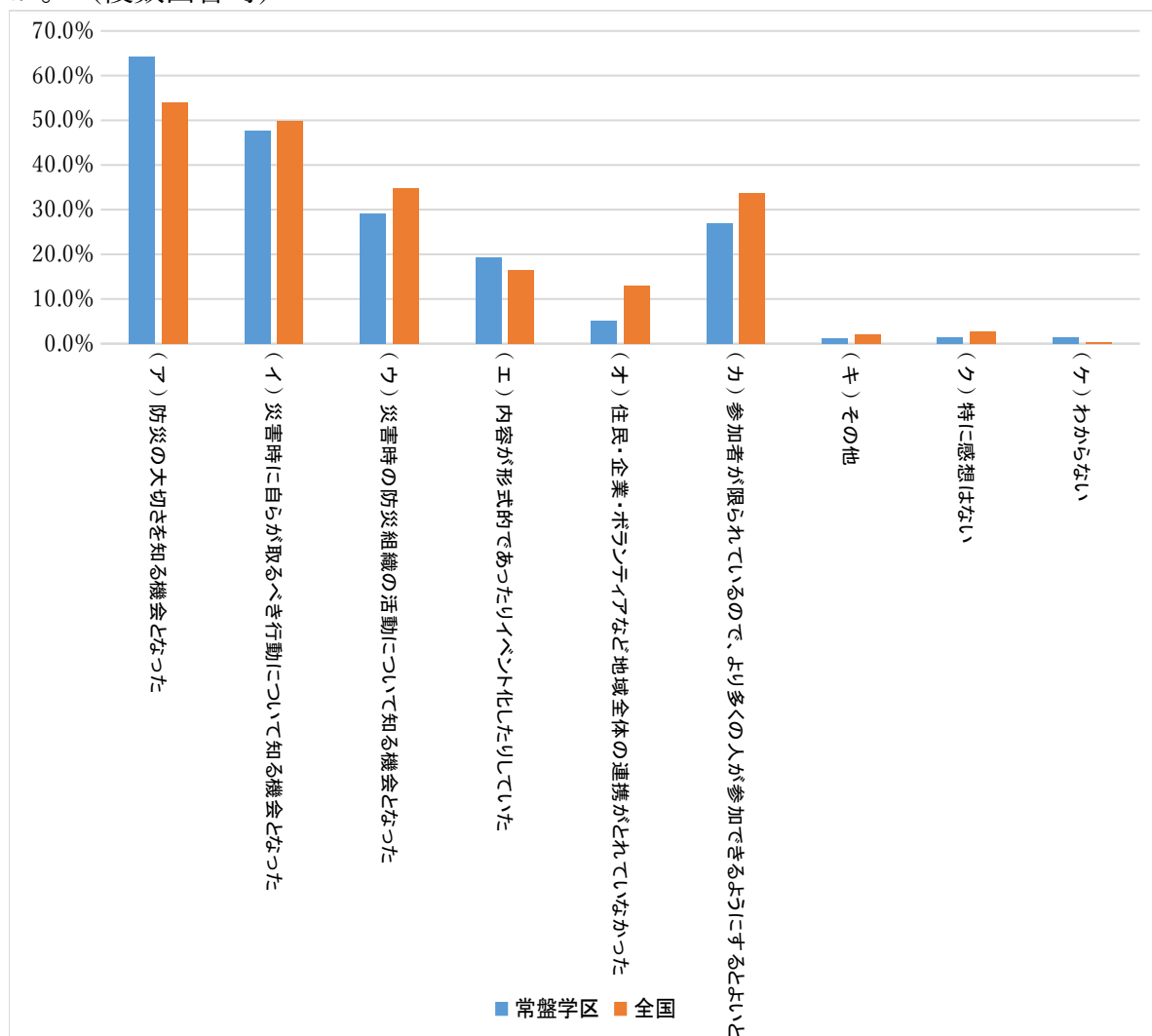
常盤学区では、防災訓練の参加や見学について「参加したことがある」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較しても同様の傾向を示している。

常盤学区では、町内会・自治会単位で毎年防災訓練を実施している所があるが、学区としての総合防災訓練を実施していないことから、多くの人に参加してもらうとともに、災害疑似体験をしてもらう等、防災意識を高める訓練を実施することが望まれる。

(Q10で「(ア)参加したことがある」、「(イ)参加したことはないが、見学したことはある」と答えた方に)

Q10 S Q a 防災訓練に参加したり見学してみてもどのようなことを感じましたか。(複数回答可)



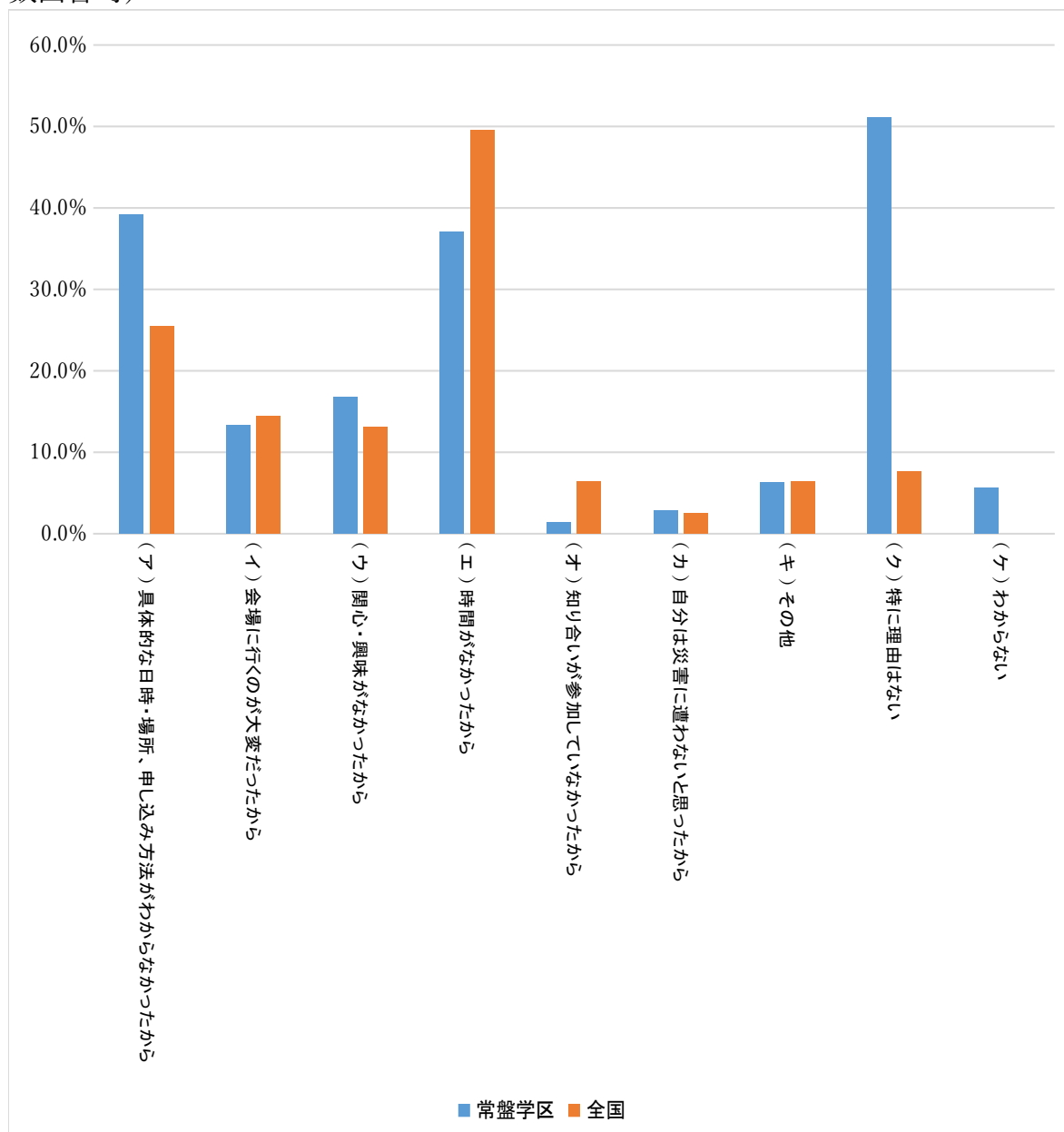
常盤学区では、防災訓練の参加、見学で感じたこととして、「防災の大切さを知る機会となった」、「災害時に自ら取るべき行動について知る機会となった」と回答している住民の割合が高い。

全国平均と比較しても同様の傾向を示している。

防災訓練に参加、見学することにより、防災意識が高まることから、学区全体の総合防災訓練を実施し、疑似災害体験をしてもらうことが求められる。

(Q10で「(ウ)訓練が行われていることは知っていたが、参加したり見学したことはない」と答えた方に)

Q10SQb 防災訓練に参加したり見学したことがないのはなぜですか。(複数回答可)

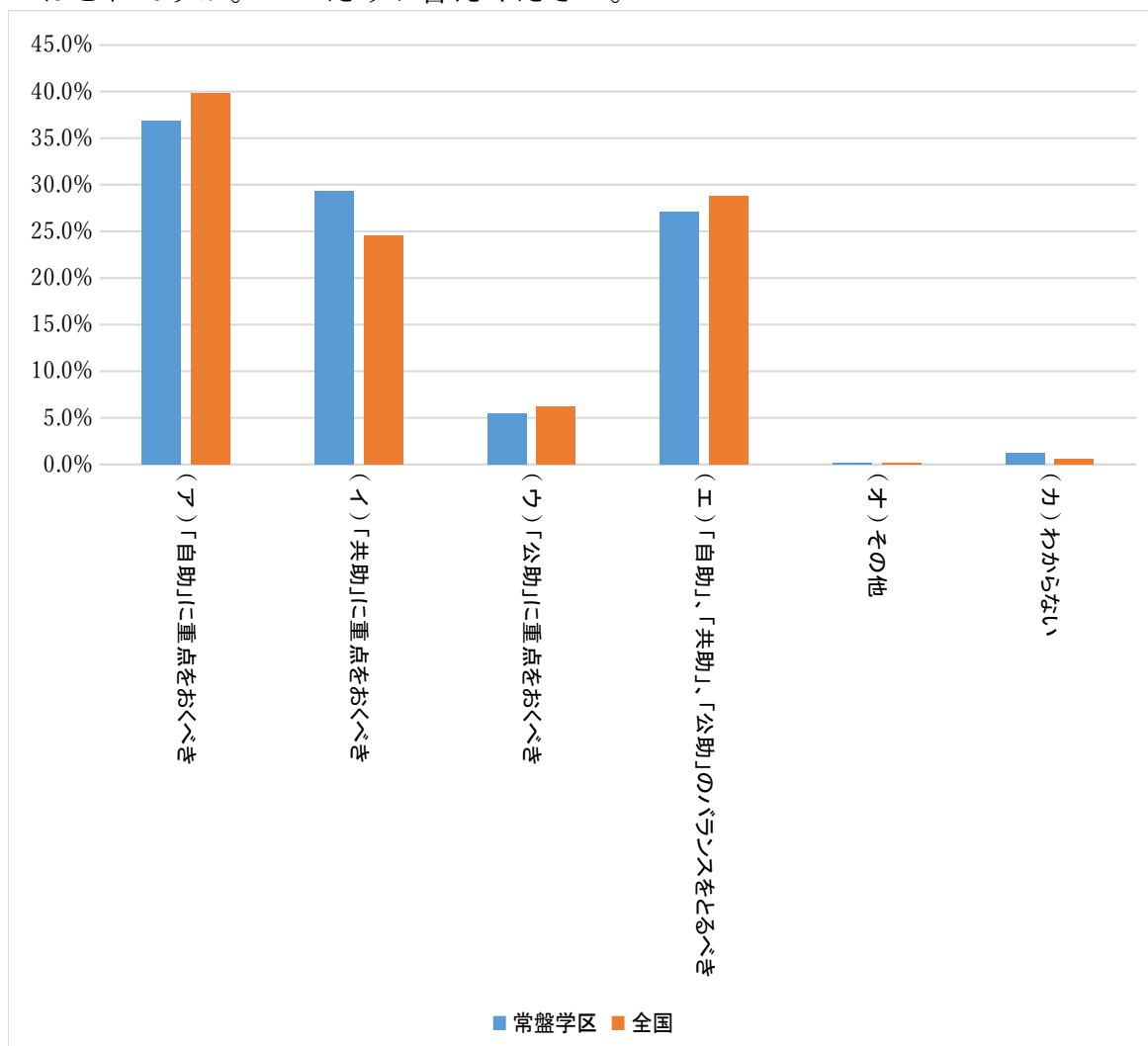


常盤学区では、防災訓練に参加、見学しなかった理由として「具体的な日時・場所、申し込み方法がわからなかったから」、「時間がなかったから」と回答している住民の割合が高い。

常盤学区は地域のつながりが強い町内会が多いことから、各種行事（ふれあいまつり、運動会）に合わせた防災活動を実施する等参加しやすい環境をつくることが求められる。

2.5. 自助、共助、公助の対策に関する意識について

Q11 災害が起こったとき取るべき対応として、あなたの考えに最も近いものはどれですか。1つだけお答えください。



常盤学区では、災害時に取るべき対応として、「「自助」に重点をおくべき」と回答している住民の割合が高い。

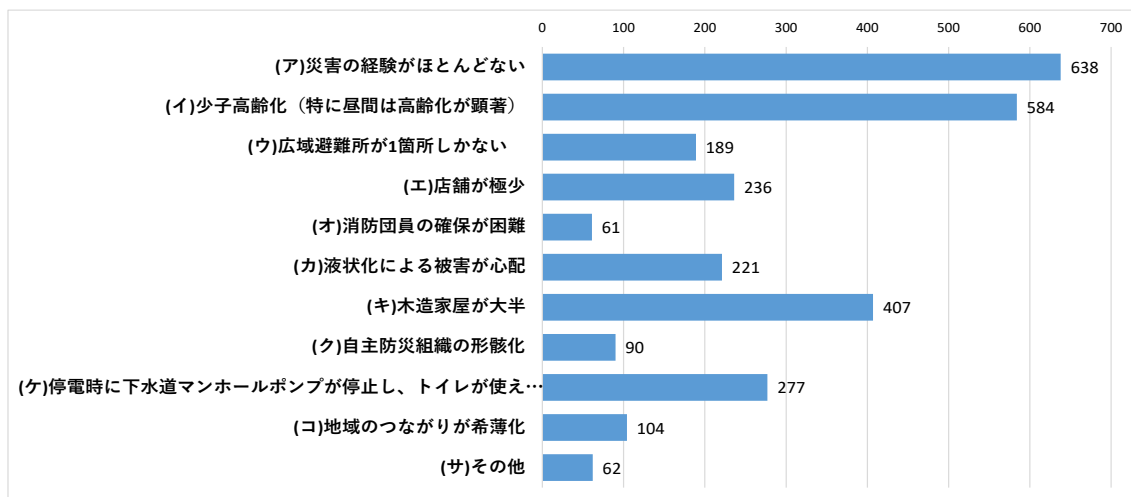
全国平均と比較すると、「「共助」に重点を置くべき」と回答している住民の割合が高くなっている。

常盤学区は、地域とのつながりが強く、地域コミュニティが充実していることもあり、災害時要援護者支援の取組を行っている町内会・自治会が多いことから「共助」の取組を意識している人が多いと推測される。

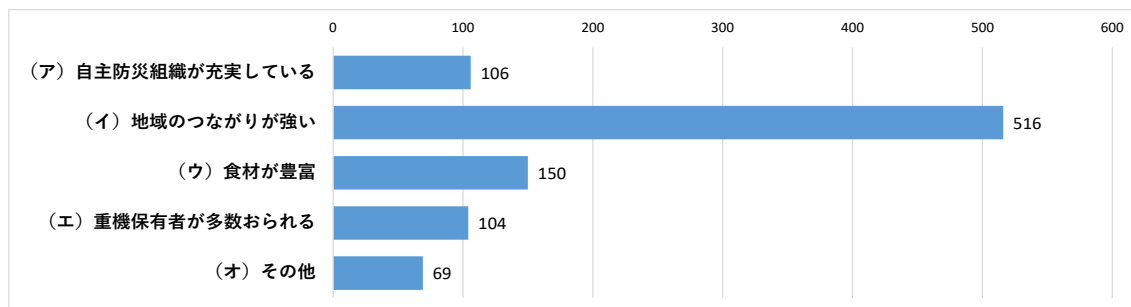
さらに、常盤学区では、重機を保有している事業所が多いことから、建物被害等の対策として、予め災害時における事業者への協力依頼を行う等協議しておくことが望まれる。

2.6. 常盤学区における防災上の特性について

Q12 防災上、常盤学区で心配することはどれですか。（複数回答可）

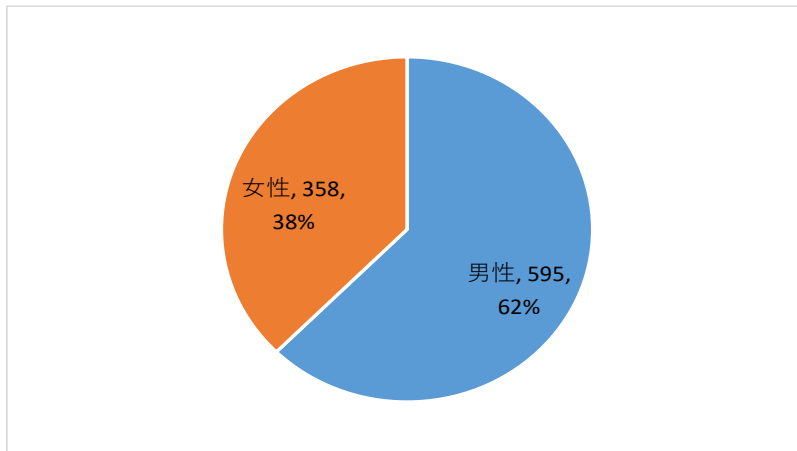


Q13 防災上、常盤学区では比較的有利であると思うことはどれですか。（複数回答可）

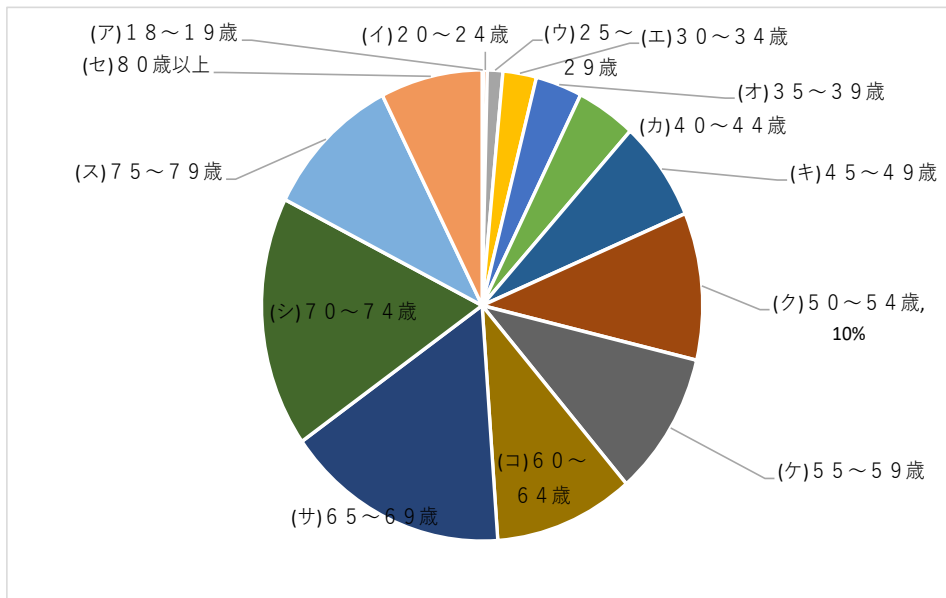


あなたご自身のことについてお伺いします。

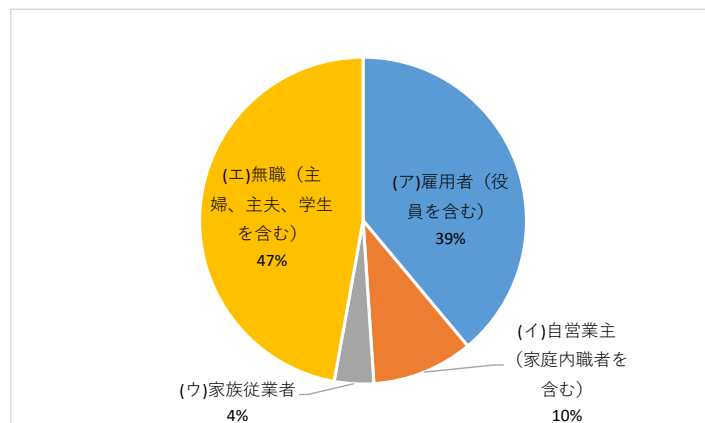
F 1 【性】



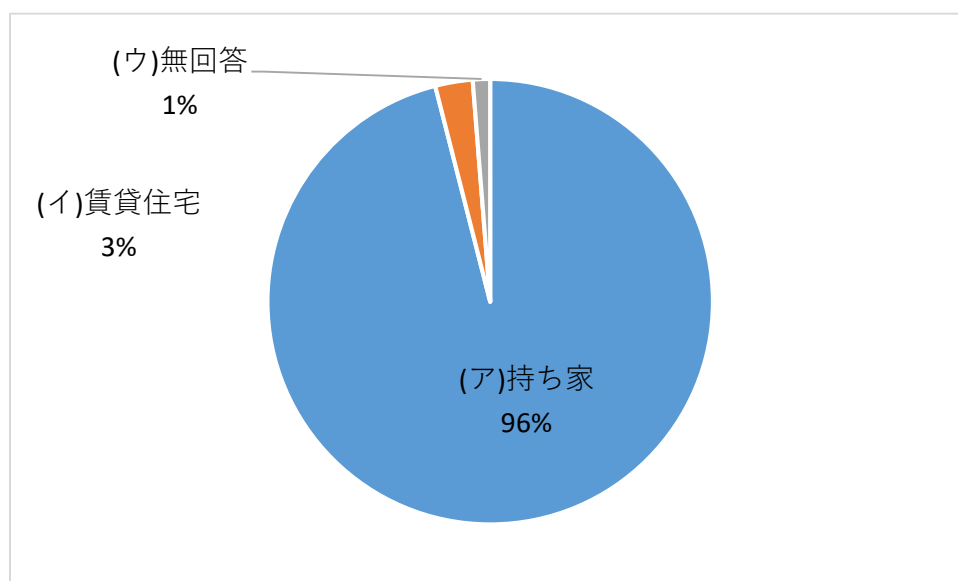
F 2 【年齢】 あなたは、おいくつですか。



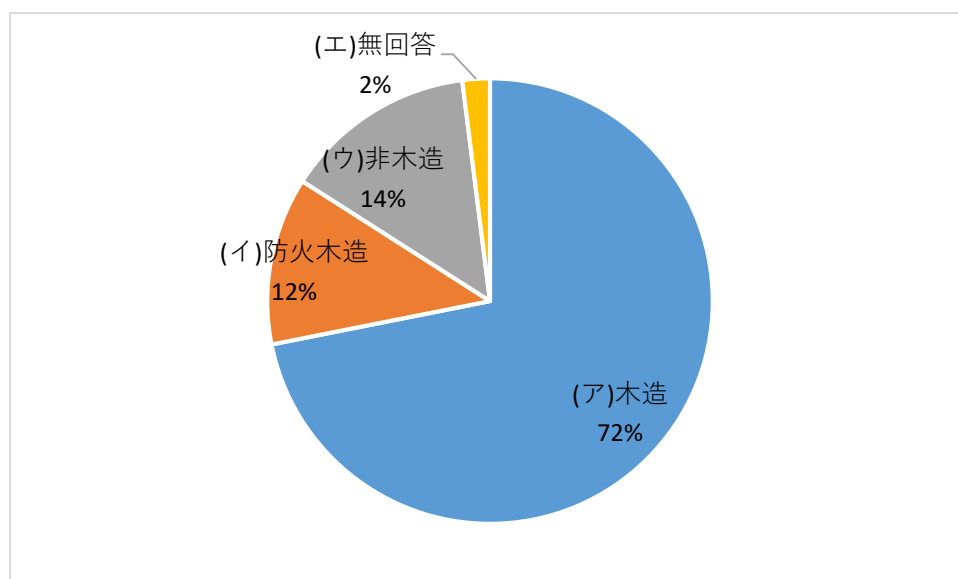
F 3 【従業上の地位】 あなたのお仕事についてお伺いします。あなたは、この中のどれにあたりますか。



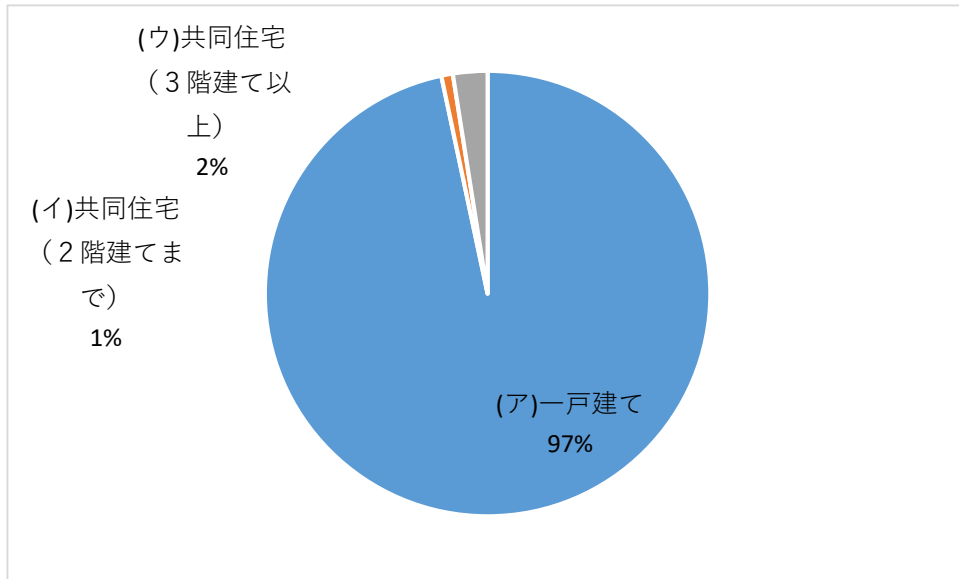
F 4 【住宅の所有形態】あなたのお住まいは、このように分けた場合、どれにあたりますか。



F 5 【住宅の構造】あなたのお住まいの造りは、このように分けた場合、どれにあたりますか。



F 6 【住宅の建て方】



F 7 【住宅の建築年】 あなたのお住まいの建築年は、このように分けた場合、どれにあたりますか。

